

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K10298

研究課題名(和文) 症状-バイオマーカー-薬理プロファイルから考える新たなせん妄薬物療法に関する検討

研究課題名(英文) A study on new delirium pharmacotherapy based on symptom-biomarker-pharmacological profile

研究代表者

谷向 仁 (TANIMUKAI, Hitoshi)

京都大学・医学研究科・准教授

研究者番号：60432481

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、せん妄症状の薬物療法的マネジメントについて、薬理プロファイルを考慮し薬剤選択に役立てることを目標とした。せん妄症状の早期把握には視線計測装置によるパレイドリア課題を用いた評価をパイロット的に検討したところ利用できる可能性がみられた。また、せん妄患者に対する抗精神病薬使用の蓄積データを後ろ向きに検討したところ、特定の受容体への親和性の強度とせん妄症状の悪化を抑える傾向との関連性がみられた。コロナ禍において計画通り研究がすすめられなかったが、検討できた内容をもとに今後の研究に活用していく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

せん妄は高齢者に見られやすい病態であり超高齢社会を迎えている我が国において、その対策の重要性は益々高まっている。対策としては発症予防と発症時の対応に大きく分けられるが、発症時にはその徴候に早期に気付く事、症状マネジメントとして有効かつ安全な薬剤選択が求められる。本研究において検討した患者負担の少ないせん妄症状評価法ならびに薬理プロファイルを考慮した薬剤選択の可能性は、せん妄症状の早期発見および薬剤の選択指針のないせん妄の薬物療法において有用となる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：The goal of this study was to consider pharmacological profiles in the pharmacological management of delirium symptoms to assist in drug selection. We piloted a pareidolia task using an eye tracking device to assess early delirium symptoms and found that it could be used. A retrospective review of accumulated data on antipsychotic use in patients with delirium showed an association between the strength of affinity for specific receptors and a tendency to suppress the exacerbation of delirium symptoms.

Although the Corona Disaster did not allow us to proceed with the study as planned, we will use the results of the study for future research.

研究分野：精神医学

キーワード：せん妄 脳機能 向精神薬 バイオマーカー 視線計測

1. 研究開始当初の背景

せん妄は高齢者にみられやすく、身体疾患や治療薬の影響によって急性の意識変容をきたす状態であり、意識レベルの低下を背景として様々な認知機能障害や精神症状を呈する。せん妄診断で広く用いられている「精神疾患の診断・統計マニュアル 第5版(DSM-5)」では、診断と同時にそのサブタイプ分類、つまり、幻覚、妄想、興奮などの激しい症状を呈する「活動型せん妄」、これとは対照的に傾眠、混乱、鎮静などを特徴とする「低活動型せん妄」、これらが混合した「混合型せん妄」を特定することがあらたに求められている。特に低活動性せん妄は、各サブタイプの中でも予後不良といわれているが一般医療者にはあまり認識されておらず、抑うつ状態と誤診されていたり、見過ごされていることが多い。

せん妄の病態には複数の要因が関与していることが多く、それにより脳内神経伝達物質のバランスが崩れ、正常の神経ネットワーク機能が障害されることが想定されている。病態仮説の一つとして、神経伝達物質であるドパミンやアセチルコリンの不均衡が示唆されているが、その具体的な病態生理や分子機序はいまだ明らかになっていない。そのため、診断に役立つバイオマーカーもいまだ見つかっておらず、臨床症状、発症様式、他の疾患の除外などによって診断されている。近年、せん妄予防の重要性が強調されるようになってきているが、実際にせん妄を発症した場合には、原因の検索とその除去/改善を行うことが原則である。そして、これまでのエビデンスから抗精神病薬を用いた対症療法が行われる。

抗精神病薬は、非定型抗精神病薬と定型抗精神病薬を合すると20種以上が国内で使用可能であるが、これら多くの選択肢があるにもかかわらず、症例ごとにどの薬剤を選択するかは各医師の経験によるところが大きい。具体的な薬剤選択基準を示したせん妄の薬物療法ガイドラインは、糖尿病の有無と血中消失半減期、剤型の差による選択法を示した日本総合病院精神医学会編集の「せん妄の治療指針 第2版」以外見当たらない。また、これまでの研究やメタ解析においても、効果面において抗精神病薬間の差はないとされている。また、コリンエステラーゼ阻害薬、メラトニン受容体作動薬、抗炎症薬などもせん妄治療の候補薬として挙げられているものの、メラトニン受容体作動薬の発症予防的な効果の報告を除き、せん妄治療への有効性の報告はいまだ確立されていないに等しい。このように、抗精神病薬の選択基準が示しにくいことや、せん妄治療候補薬の有効性の結果が一定しない大きな理由の一つとして、薬物療法的介入がせん妄の症候全体をターゲットとしており、個々の症例の詳細な脳機能領域の障害の特徴を踏まえた検討がなされていないことが可能性として考えられる。せん妄は発見が遅れると、脳内の神経伝達物質の不均衡が多様かつ広範に及び全般的な脳機能障害(意識障害)として現れるが、発症早期においてはこれら神経伝達物質の不均衡は限定的である可能性がある。その場合、単一の症状が特に目立って出現したり、病態によってはより影響を受けやすい神経伝達経路がある可能性もある。これら脳内で起こる神経伝達物質の不均衡と脳機能との関連は、様々な神経・精神疾患研究によるエビデンスの蓄積から徐々に理解されつつあることから、せん妄の発症早期の脳機能障害を丁寧に評価し、その症状がどの神経伝達物質の関与によるかを類推し、どのような薬理プロファイルを持つ薬剤が効果的かを考えて薬剤を選択していくことは非常に重要と考えられる。一方、様々なせん妄症状と関連して動くバイオマーカーの存在は、症状評価のみならず薬剤選択にも役立つと考えられるが、少なくとも薬剤選択に役立つバイオマーカーはいまだ臨床的に確立されていない。したがって、薬剤選択の指標となるバイオマーカーの探索も非常に大切である。このように一定の基準に基づく薬剤選択が可能となれば、「各医師の経験による治療」から進んだ薬物療法が可能となる。このことは、不適切な処方や過量投与、投薬の長期化の抑止につながるだけでなく、せん妄診療を主に担当する精神科医が不在の医療機関であっても、大きな逸脱のない標準的な治療が行える可能性を持っている。

2. 研究の目的

本研究では、せん妄による脳機能障害を症状別に検討し、それらと関連するバイオマーカー、(特に神経伝達物質)の検索及び挙動を、生理学的、生化学的手法を用いて間接的にモニターする。さらには臨床症状、バイオマーカーと治療薬との関連を薬理プロファイルから詳細に検討する。これらの結果をもとに、臨床症状やバイオマーカーから個々の症例に適した薬剤選択が可能となるように検討し、最終的にはせん妄薬物療法の指針作成につなげたいと考えている。

3. 研究の方法

京都大学、大阪大学、岡山大学、宮崎大学、金沢医科大学による多施設共同研究を行う。初年度(29年度)はせん妄の症状評価(Memorial Delirium Assessment Scale: MDAS、Delirium Motor Subtyping Scale: DMSS)、生理学的評価(Gaze finder)、生化学的評価(尿/血液/唾液)及び各医師による通常の治療介入を行い、各症状と生理学/生化学評価との関連性、各症状と医師が任意で使用した薬剤(主には抗精神病薬)による効果の薬理的観点から見た関連性について検討する。2年目(30年度)はそれらの結果を元に、臨床症状、バイオマーカーから推測される薬理的に妥当な薬剤選択によるせん妄介入を前向きに行い、薬剤選択の妥当性を評価・検討

する。3 年目（31 年度）は、それらの結果を吟味・検討して学術論文にて公表し、さらにはせん妄薬物療法の指針の作成を目指す。

4．研究成果

当初の研究期間において、リクルート対象病棟の選定、協力体制の構築に時間を要し、延長期間においては新型コロナウイルス感染症対策の影響により、計画通りに研究を進めることが困難であったため当初の計画の一部しか進めることが出来なかった。

その中で検討出来た内容について報告する。

・せん妄徴候早期評価のための課題開発：

せん妄症状把握のために必要な検査に対する患者負担を極力軽減しつつ、せん妄の早期徴候把握を目指して視線計測装置（Gaze finder）を活用することを検討した。この装置はモニターに映る映像を見てもらうだけで、特に専用のメガネなどを装着することなくその視線の動きを追跡することができる装置である。何か特殊な機器をあらたに装着する必要もなく評価でき、患者負担はごく少ないと考えられた。モニターに映し出す課題としては、せん妄に早期から高頻度に認められる注意力障害と症状として特徴的な幻視を念頭に検討し、レビー小体型認知症の評価として開発されたパレイドリアテストを利用した評価をパイロット的に施行した。その結果、せん妄発症前にパレイドリアがみられた者では健常者と異なり、特にサッケードの違いが大きいことが示唆された。

・薬剤評価：

過去のせん妄発症例（過活動型が中心）に対する抗精神病薬を用いた症状マネジメントの結果（MDAS を用いた経時的な症状変化）を、抗精神病薬の受容体プロファイルに着目して後ろ向きに検討したところ、ヒスタミン H1 受容体やノルアドレナリン 1 受容体に強い親和性を示す抗精神病薬を使用した場合、他の受容体への親和性強度に比しせん妄が増悪しにくい可能性が示唆された。このことから、せん妄のマネジメントに、これらの受容体プロファイルを考慮し薬剤選択を行うことの意義が考えられた。ただし、低活動型せん妄については今後さらに検討を重ねる必要があるとも考えられた。

・今後の展望：

近年せん妄はこれまで以上に発症予防に力点が置かれつつあること、せん妄を発症した場合の薬物療法的マネジメント、特に終末期における抗精神病薬の使用については懸念が示されつつあることなど、せん妄対策にも大きな変化がみられてきている。ここまで得られた知見は、今後のせん妄の早期発見および適切な薬物療法的介入に役立てることができると考えられ、引き続き研究を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Nakajima-Ohyama KC, Tansho K, Tanimukai H.	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 An alarm on vitamin D therapy for Alzheimer's disease patients: a case with Alzheimer's disease whose symptoms were exacerbated under chronic use of eldecalcitol.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 145-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12786.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野 康二, 長谷川 貴昭, 稲田修士, 原島 沙季, 松田 能宣, 谷向 仁	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 がん治療におけるせん妄への対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 がんと化学療法	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷向 仁	4. 巻 32(1)
2. 論文標題 「不眠にベルソムラがよい」は本当か？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 緩和ケア	6. 最初と最後の頁 60-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷向 仁	4. 巻 73(2)
2. 論文標題 せん妄の定義・3因子を知る	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morino T, Shinohara Y, Niu Q, Shimoura K, Tabata A, Hanai A, Ogawa M, Kato T, Tanimukai H, Tsuboyama T, Matsuoka M, Adachi S, Aoyama T.	4. 巻 10(6)
2. 論文標題 Perception Gap in Health-Related Quality of Life Between Young Adult Survivors of Childhood Cancer and Their Family.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Adolesc Young Adult Oncol.	6. 最初と最後の頁 735-739
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/jayao.2020.0232.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda I, Inoue S, Uemura K, Tanimukai H, Hatano Y, Yokomichi N, Amano K, Tagami K, Yoshiuchi K, Ogawa A, Iwase S; Phase-R Delirium Study Group.	4. 巻 24(6)
2. 論文標題 Low-Dose Trazodone for Delirium in Patients with Cancer Who Received Specialist Palliative Care: A Multicenter Prospective Study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Palliat Med.	6. 最初と最後の頁 914-918
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/jpm.2020.0610.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貞廣良一, 平山貴敏, 和田佐保, 北浦祐一, 谷向 仁	4. 巻 36(12)
2. 論文標題 緩和ケア・エンドオブライフケアにおける最新のせん妄対策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1411-1416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内麻理, 角甲純, 菅野雄介, 堂谷知香子, 谷向 仁	4. 巻 5(4)
2. 論文標題 がん患者の終末期せん妄の特徴とは	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エンド・オブ・ライフケア	6. 最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 美津島 大, 赤倉 功一郎, 谷向 仁, 佐藤 威文.	4. 巻 34(8)
2. 論文標題 アンドロゲン受容体阻害薬が認知機能に及ぼす影響：血液脳関門透過性の臨床的意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 泌尿器外科	6. 最初と最後の頁 977-983
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷向 仁, 佐藤 威文, 美津島 大, 赤倉 功一郎	4. 巻 34(9)
2. 論文標題 前立腺癌治療における認知機能マネジメントの重要性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 泌尿器外科	6. 最初と最後の頁 1071-1076
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda Y, Tanimukai H, Inoue S, Inada S, Sugano K, Hasuo H, Yoshimura M, Wada S, Dotani9 C, Adachi H, Okamoto Y, Takeuchi M, Fujisawa D, Kako J, Sasaki C, Kishi Y, Akizuki N, Uchitomi Y, Matsushima E, Inagaki M, Okuyama T.	4. 巻 50 (5)
2. 論文標題 JPOS/ JASCC clinical guidelines for Delirium in adult cancer patients: A summary of recommendation statements	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol .	6. 最初と最後の頁 586-593
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyaa003.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maeda I, Inoue S, Uemura K, Tanimukai H, Hatano Y, Yokomichi N, Amano K, Tagami K, Yoshiuchi K, Ogawa A, Iwase S.	4. 巻 24(6)
2. 論文標題 Low-Dose Trazodone for Delirium in Patients with Cancer Who Received Specialist Palliative Care: A Multicenter Prospective Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Palliat Med.	6. 最初と最後の頁 914-948
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/jpm.2020.0610.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda Y, Tanimukai H, Inoue S, Inada S, Sugano K, Hasuo H, Yoshimura M, Wada S, Dotani9 C, Adachi H, Okamoto Y, Takeuchi M, Fujisawa D, Kako J, Sasaki C, Kishi Y, Akizuki N, Uchitomi Y, Matsushima E, Inagaki M, Okuyama T.	4. 巻 50 (5)
2. 論文標題 JPOS/ JASCC clinical guidelines for Delirium in adult cancer patients: A summary of recommendation statements	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol .	6. 最初と最後の頁 586-593
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyaa003.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanimukai H.	4. 巻 30 Suppl6
2. 論文標題 CACD:Attitude of medical staff in cancer care toward symptoms in cancer survivors , and our current approaches	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ann Oncol	6. 最初と最後の頁 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/annonc/mdz349	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷向 仁	4. 巻 29 (5)
2. 論文標題 化学療法に伴う認知機能障害 -ケモブレインとは-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 緩和ケア	6. 最初と最後の頁 447
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷向 仁	4. 巻 61 (3)
2. 論文標題 向精神薬使用の適切な判断 認知症に対する抗精神病薬使用の適切な判断	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊薬事	6. 最初と最後の頁 61-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kakusho Chigusa Nakajima-Ohyama, Okada A, Hayano E, Takimoto K, Ueki-Iwamoto C, Shizusawa Y, Tanimukai T.	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 Efficacy and safety of gabapentin for delirium in Parkinson's disease: A case series.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Jpn J Gen Hosp Psychiat	6. 最初と最後の頁 207-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井 啓, 谷向 仁, 中村 菜々子, 山村 麻予, 佐々木 淳, 足立 浩祥.	4. 巻 -
2. 論文標題 メンタルヘルスケアに関する行動特徴とそれに対応する受療促進コンテンツ開発の試み.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理学研究.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.90.17239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taniguchi T, Tanimukai H, Hirai K, Tajime K.	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 A Pilot Study of Barriers to Psychiatric Treatment among Japanese Healthcare Workers.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medical Science & Healthcare Practice	6. 最初と最後の頁 66-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsui T, Tanimukai H.	4. 巻 47(8)
2. 論文標題 The use of psychosocial support services among Japanese breast cancer survivors.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 743-748
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyx058.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanimukai H. Matsui T.	4. 巻 11(2)
2. 論文標題 Prevalence of cognitive impairments following chemotherapy and its relationship to depression in Japanese breast cancer survivors: an exploratory study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Int J Complement Alt Med.	6. 最初と最後の頁 145-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田朱公、谷向 仁	4. 巻 37(4)
2. 論文標題 なぜせん妄は特定の患者で起こりやすいのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Modern Physician	6. 最初と最後の頁 319-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村 匡史, 足立 浩祥, 榎戸 正則, 白波瀬 丈一郎, 貞廣 良一, 谷向 仁	4. 巻 60(3)
2. 論文標題 せん妄と鑑別の迷う病態	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 273-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogawa Masahiro, Uchiumi Ayame, Sato Susumu, Hamakawa Yoko, Kobashi Mizuki, Aoyama Tomoki, Tanimukai Hitoshi	4. 巻 18
2. 論文標題 Preliminary study of assessing cognitive impairment in older patients with chronic obstructive pulmonary disease by using a cognitive functional assessment tool & via; a touchscreen personal computer	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Multidisciplinary Respiratory Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4081/mrm.2023.892	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計53件（うち招待講演 24件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療における認知機能障害 ～「気づく」、「尋ねる」ことから始まる患者支援～
3. 学会等名 Breast Cancer Conference (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療における様々な認知機能障害
3. 学会等名 がんと認知機能を考える会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 せん妄の薬物療法の限界と予防の重要性 Overview
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療における認知機能障害 ～化学療法、ホルモン療法による影響を中心に～
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 心理的側面を考える前に行うべきこと～がん医療における認知機能障害～
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 精神科医からみたBPSD対応：怒りに焦点を当てて
3. 学会等名 第32回 サイコネフロロジー学会.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 急性期病院におけるせん妄・認知症対策 ～緩和ケアチームにおける精神科医の立場から～
3. 学会等名 第4回日本老年薬学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 脳器質的要因を背景とした怒り ～ 認知症、せん妄、脳転移を中心に～
3. 学会等名 緩和・支持・心のケア 合同学術大会2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 リエゾン領域に見られる様々な認知機能障害 ~抑うつと絡めて~
3. 学会等名 Consultation-Liaison Psychiatrists Meeting (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん患者の不眠・不安・せん妄に対するご対応
3. 学会等名 Breast Cancer Web Coference (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大山 覚照, 滝本 佳予, 沈沢 欣恵, 谷向 仁
2. 発表標題 ガバベンチンの抗せん妄効果についての後ろ向き観察研究
3. 学会等名 第33回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 せん妄と不眠 ~どのように考え、どのようにマネジメントするか~
3. 学会等名 山陰医療安全セミナー ~せん妄対策と睡眠薬を考える会~ (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 一般病院における認知症併存者への対応の課題 ~透析医療での課題を含めて
3. 学会等名 第3回南大阪サイコネフロロジー研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 認知症を併存するがん患者への対応
3. 学会等名 第30回日本医学会総会 2019 中部 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 「がん患者におけるせん妄ガイドライン」の刊行と今後の方向性
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 受容体プロファイルによるせん妄治療薬の選択
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷向 仁, 井沢知子, 市原香織, 小椋奈津子, 古谷和己, 小川真寛, 馬場千夏, 小橋美月, 華井 明子
2. 発表標題 がん治療中にみられる様々な症状に関する医療者への調査 ~ 認知機能障害の位置づけ ~
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲田修士, 菅野康二, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ1: がん患者のせん妄には, どのような評価方法があるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅野康二, 稲田修士, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ2: がん患者のせん妄には, どのような原因(身体的原因・薬剤原因)があるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 蓮尾英明, 吉村匡史, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ3: せん妄を有するがん患者に対して, せん妄症状の軽減を目的として抗精神病薬を投与することは推奨されるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田佐保, 堂谷知香子, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ4: せん妄を有するがん患者に対して、せん妄症状の軽減を目的としてヒドロキシジンを単独で投与することは推奨されるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立浩祥, 岡本禎晃, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ5: せん妄を有するがん患者に対して、せん妄症状の軽減を目的としてベンゾジアゼピン系薬を単独で投与することは推奨されるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本禎晃, 足立浩祥, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ6: せん妄を有するオピオイド投与中のがん患者に対して、せん妄症状の軽減を目的としてオピオイドを変更すること(スイッチング)は推奨されるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堂谷知香子, 和田佐保, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ7: せん妄を有するがん患者に対して、せん妄症状の軽減を目的として推奨される非薬物療法にはどのようなものがあるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内麻理, 藤澤大介, 角甲純, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ8: がん患者の終末期のせん妄に対して、せん妄症状の軽減を目的として推奨されるアプローチにはどのようなものがあるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 角甲純, 藤澤大介, 竹内麻里, 谷向仁, 松田能宣, 井上真一郎, 奥山徹, 稲垣正俊, 内富庸介, 日本サイコオンコロジー学会ガイドライン策定委員会せん妄小委員会
2. 発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドライン CQ9: せん妄を有するがん患者に対して、家族が望むケアにはどのようなものがあるか?
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療における認知機能障害「治療中にみられるがん患者の様々な症状に関する医療者への調査」と我々の取り組み
3. 学会等名 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん患者におけるせん妄ガイドライン 2019年版について
3. 学会等名 緩和ケア アドバンスト・セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 「がん患者におけるせん妄ガイドライン 2019年版」の刊行と今後の方向性
3. 学会等名 第2回緩和医療学会関西支部学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療で見られる精神症状 ～緩和ケアチームの活動から～
3. 学会等名 第37回日本社会精神医学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 認知症を併存するがん患者の 臨床的問題/課題
3. 学会等名 第23回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 今晚どうする？せん妄対策道しるべ
3. 学会等名 第23回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 サイコオンコロジーの現場から
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん患者のせん妄ガイドライン作成状況について
3. 学会等名 第3回がんサポーターティブケア学会学術集会,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 急性期病院における認知症・せん妄対策 ~患者を支える家族に対する支援も含めて~
3. 学会等名 第4回患者・家族メンタル支援学会・学術総会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん患者にみられるせん妄について、ガイドラインをどのように臨床に活かすか? -今後のせん妄研究の課題も含めて
3. 学会等名 第31回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大山覚照、中島陽、谷向 仁
2. 発表標題 ガバベンチンの導入によりベンゾジアゼピン系薬物依存から円滑に離脱できた1症例
3. 学会等名 第31回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 高齢者にみられる精神症状と注意すべき薬剤 ～認知症・せん妄を中心に～
3. 学会等名 京都府薬剤師会 第3回学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療における様々な 認知機能障害
3. 学会等名 みやざきホスピス・緩和ケアネットワーク 第12回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 薬剤師に求められるせん妄対策のエッセンス
3. 学会等名 第30回 日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療における様々な認知機能障害 ~ 不安やうつ病治療を行う前に考えること ~
3. 学会等名 第7回がんところの懇話会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療におけるせん妄 ~ 緩和ケアチームの活動から ~
3. 学会等名 第25回日本精神科救急学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療で見られる精神症状 ~ 緩和ケアチームの活動から ~
3. 学会等名 第37回日本社会精神医学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がんによる認知機能障害
3. 学会等名 第27回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療における認知機能障害
3. 学会等名 第35回日本サイコオンコロジー学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 認知症における緩和ケア～どのような苦痛や苦悩がみられ、どのように対応すべきか？～
3. 学会等名 第35回日本総合病院精神医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 コンサルテーション-リエゾン領域における 不眠へのアプローチ ～せん妄対策を視野に入れて～
3. 学会等名 第27回中国地区GHP研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん患者におけるせん妄ガイドライン変更のポイント
3. 学会等名 不眠症診療Webセミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 身体疾患患者に見られる様々な認知機能障害 ～がん医療を中心に～
3. 学会等名 第32回大阪緩和医療フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 一般病院における不眠へのアプローチ ～せん妄リスク対策を視野に入れて～
3. 学会等名 令和4年度市立芦屋病院医療安全研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療におけるせん妄とそのマネジメント ～神経障害性疼痛併存例を含めての検討～
3. 学会等名 メディカルスタッフのための緩和ケアWebセミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん医療におけるせん妄のマネジメント ～がん疼痛や神経障害性疼痛併存時の注意点を含めて～
3. 学会等名 緩和医療講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷向 仁
2. 発表標題 がん患者におけるせん妄ガイドライン 2022年版変更のポイント
3. 学会等名 外来化学療法セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 谷向 仁（成本 迅，谷向 仁 共編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新興医学出版社	5. 総ページ数 120
3. 書名 スペシャリストが教える 認知症を合併している患者の診かた、関わりかた	

1. 著者名 谷向 仁，上村恵一，木野美和子（小川朝生編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 156
3. 書名 認知症plus院内対応と研修	

1. 著者名 谷向 仁（マイケル ファイヤーステイン（編），ラリサ ネフリユードフ（編），高橋 都（監訳），佐々木 治一郎（監訳），久村 和穂（監訳））	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メディカル・サイエンス・インターナショナル社	5. 総ページ数 420
3. 書名 がんサバイバーシップ学	

1. 著者名 谷向 仁(小山 敦子 編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 215
3. 書名 がん診療における精神症状・心理状態・発達障害ハンドブック	

1. 著者名 谷向 仁(編著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 191
3. 書名 がんと認知機能障害 気づく, 評価する, 支援する	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 230
3. 書名 DELTAプログラムによるせん妄対策 多職種で取り組む予防, 対応, 情報共有	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金原出版	5. 総ページ数 103
3. 書名 がん患者におけるせん妄ガイドライン 2019年版 日本サイコオンコロジー学会/日本がんサポーターティブケア学会(編)	

1. 著者名 谷向 仁(査読委員)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 445
3. 書名 専門家をめざす人のための緩和医療学	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金原出版	5. 総ページ数 103
3. 書名 がん患者におけるせん妄ガイドライン	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 267
3. 書名 いまさら訊けない がん支持療法	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金原出版	5. 総ページ数 2400
3. 書名 がん患者におけるせん妄ガイドライン 2022年版	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メジカルビュー社	5. 総ページ数 220
3. 書名 レジデント必読 病棟でのせん妄・不眠・うつ病・もの忘れに対処する	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メディカル・サイエンス・インターナショナル	5. 総ページ数 420
3. 書名 がんサバイバーシップ学	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メジカルビュー社	5. 総ページ数 424
3. 書名 サイコネフロロジー・エッセンシャル	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金原出版	5. 総ページ数 340
3. 書名 よくわかる老年腫瘍学	

1. 著者名 谷向 仁(分担)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 230
3. 書名 緩和医療薬学(改訂第2版)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	井上 真一郎 (INOUE Shinichiro) (50379765)	岡山大学・大学病院・助教 (15301)	
研究 分担者	中川 俊作 (NAKAGAWA Shunsaku) (50721916)	京都大学・医学研究科・助教 (14301)	
研究 分担者	武田 朱公 (TAKEDA Shuko) (50784708)	大阪大学・大学院医学系研究科・寄附講座准教授 (14401)	
研究 分担者	大井 一高 (OHI KAZUTAKA) (70629203)	金沢医科大学・医学部・講師 (33303)	
研究 分担者	片山 泰一 (KATAYAMA Taiichi) (80333459)	大阪大学・大学院連合小児発達学研究所・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------